

Crematory

火葬場整備を考える

候補地選定に向けた庁内会議が始まる

市は、昨年12月に火葬場建設候補地検討委員会から提出された報告書の評価基準(案)に沿って、15カ所の候補エリアの評価とそれに基づく候補地の絞り込みを進めています。

候補地の選定は、第1段階で「土砂災害防止法」や「農業振興地域の整備に関する法律」などの関係法令による規制の有無について整理し、第2段階で敷地の状況や周辺環境、利便性などの立地条件から各候補エリアを評価しました。

建設候補地の選定に向けて2月4日、市の幹部職員による庁

内会議を開きました。会議では、担当課で作成した評価表をもとに、15カ所の候補エリアを5カ所程度に絞るために協議しました。今後は、市の財政負担、施設周辺のインフラ整備、各種手続きに要する期間などを比較検討し、候補地を1カ所に絞り込んでいきます。最終的には、本年度中に市長が候補地を選定し、できるだけ早い時期に、地権者や地区への説明会を開催したいと考えています。

火葬場は、人が生きている限り誰もが必ずお世話になる場所であり、市民生活に深い関わり

をもつ重要な施設です。1日も早く新火葬場が整備できるよう市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



▲幹部職員が集まり候補エリアを協議

御前崎市火葬場

検索

照会 環境課 ☎ 0537 85 1162

静岡カントリー浜岡コース
&ホテルで1月24日、日本の
原子力施設立地地域に住むオ
ピニオンリーダー（地域の代
表者）とイギリス、フランス、
スウェーデンといったヨーロッパ
各国の原子力施設立地
地域のオピニオンリーダーの
意見交換会が開かれました。
これは、アジア・オセアニア
ア16カ国でつくる東アジア・
アセアン経済研究センター
(ERIA)が、原子力導入の
参考にするために開催したも
ので、「原子力のパブリック・
アクセプタンス（社会的受容）
向上プロジェクト」の一環と
して、一般財団法人日本エネ
ルギー経済研究所が委託を受
けて実施したものです。



▲意見交換会のようす

Atomic

暮らしと原子力

ヨーロッパの原子力施設立地地域の オピニオンリーダーとの意見交換会

出席し、それぞれの立場から
当時の状況や思いについて発
言しました。
海外の各代表者からは、原
子力事業では、信頼関係の構
築や情報の透明性、継続的な
対話が必要といった意見が上
がりました。
今回の内容は東アジアサ
ミット加盟各国に政策提言さ
れる予定です。